

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒へのアンケート調査より「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」「先生方の専門知識が豊富で授業内容に満足ができる」「授業の教え方や説明がわかりやすい」については、昨年度よりもプラス評価が若干上がっている。先生方の生徒への姿勢、さらに「力のつくわかりやすい授業」への研修の効果が少しずつ現れてきているかもしれない。 ・生徒へのアンケート調査より「本校では、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習評価を行っている」「本校の先生は、補習等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」についてはそれぞれ昨年と比較して11%、13%上がっている。本年度は全体の共通認識事項として評価の方法や具体的な観点を、必要に応じて年度当初各教科で生徒に説明してきた効果が現れていると感じる。今後さらに適切な説明方法について模索したい。ただし保護者についての同様な設問に対してはほぼ昨年と変わらず、適切な情報発信や丁寧な保護者への説明が求められる。 ・「本校は、通信やホームページ等を用いて・・・情報を速やかに伝えている」の項目については昨年度に比べて大幅にアップしている。昨年の反省を活かしHPを刷新し、こまめに情報発信した結果である。今後発信内容についてさらに精査して、アップしていきたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	わかる授業を通して生徒に存在感・達成感をもたせる授業実践	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会を中心に「存在感・達成感をもたせる授業」「わかる授業」をテーマとした校内研修を、学年会や教科会との連携のもと、企画委員会、職員会で周知徹底をはかり実施していく。学校支援課訪問も授業改革において大きな柱としたい。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 公開授業・研究授業及び教科研究会の実施 (2) 授業評価アンケートの実施 (3) 生徒の進路希望を考慮したカリキュラム作成 (4) 少人数授業・習熟度授業の実施 (5) 評価方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒による授業評価および授業に関するアンケート (2) 日々の自宅学習記録用紙への記入及び年間4回実施する統一自宅学習時間調査結果 (3) 単位未修得者数、定期考査、対外模試での成績評価 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期2回に公開授業週間を実施。期間内に研究授業・教科研究会を実施 ・全教科において前期終了時に授業評価の実施 ・自宅学習時間3時間以上を目標として授業内容、課題を設定 ・新しい学習指導要領による新しい学力観を基に生徒が自らの現状把握とその克服を促すための新しい評価方法を設定する。その評価方法を年々検証することで、洗練させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか ②授業評価結果が授業改善へと生かされているのか ③自宅学習時間が目標の3時間を超えたか ④単位未修得者数が何人か 	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C D</p>
11 成果・課題	<p>○昨年同様に「存在感・達成感をもたせる授業」「わかりやすい授業」を実現するための1つ手段として「言語活動の充実」を取り上げ、各教科にその工夫や方法を検討し、研究授業での実践を依頼した。また7月に学校支援課の訪問を受け、各教科でのそれぞれの課題を指導主事の先生に相談するなど、指導を受けながら授業改善を少しずつではあるが実現することができた。11月には各教科の授業改善についての報告を学習指導委員会(カリキュラム委員会)の中でも行うことができた。</p> <p>●昨年同様、上記において教科により内容の密度に偏りがあった。</p> <p>○マークシートを使用した全職員の担当2クラスにおける生徒による授業評価を実施。各教員の反省・点検にも繋がった。</p> <p>●自宅学習時間調査が3時間を超えるのは定期考査前のみであり、平常時に超えていない。日常での学習課題の与え方を検討する必要がある。また長期休暇での課題の与え方などについても検討するところも多く、それを受けての課題テストの実施時間を含めた在り方などが課題となっている。</p> <p>○昨年度さらにより学習指導要領に則った本校としての統一の評価基準を徹底したり教科で話し合いができた点は成果といえる。生徒・保護者に説明責任が果たせる評価基準・内容であり今後更なる洗練が大切である。</p>	
		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D

12 来年度に向けての改善方策案

・「わかる授業」「学力が伸びる授業」の研究を徹底的に行いたい。また各教科の評価基準についてさらに洗練させ適切な評価基準で評価することで、生徒の意欲を喚起するなど、生徒の力を伸ばしていきたい。授業や補習のみならず、すべての活動で生徒の主体性を大切にしていけるよう工夫していきたい。

学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月17日

【意見・要望・評価等】

- ・自宅学習時間について、まだ少ないので通常時で3時間以上を目標として、達成したい。「模擬試験を受けても復習ができていないのではないか」という御意見をいただいた。
- ・先生方に細かなところまでよく面倒を見ていただき、対応してもらっている。
- ・自然科学コースのプレゼンテーションソフトを使っでの発表は非常に良い。人前で話す経験ができ、今後に活きる活動である。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	昨年度と比べプラス評価が増え、生徒からの評価が向上した。 この背景には、集会やクラスでの意識付けが功を奏したことや発行物や行事が生徒に受け入れられたことも想定される。また、3年生に関しては補習の希望者制を全面的に導入したことが、好意的に受け入れられたものと判断される。 しかし、今後も行事ごとの評価を拡充し生徒の声をHPなどで反映させることが必要である。また、一人一人の進路指導を充実させるために、懇談会に向けて進路指導部より担任に向けて案内やアドバイスができる態勢もとれるように配慮したいと考える。こうした取り組みによりプラス評価をさらに充実させたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇目標明確化と評価過程充実を図り、指導内容・方法を改善する。 ◇「開かれた進路指導」を推進する。 ◇生徒一人一人が自己効力感・有用感を保持しつつ進路選択を検証することができるように指導と援助を使い分け「キャリア発達」を促す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部会での情報交換、協議をもとにした進路指導の推進。 ・学年会、職員会議等会議での情報提供・収集。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 綿密なデータ分析による研修・検討会実施 (2) 授業・補習等を通じた入試多様化への対応 (3) 情報発信の充実と外部環境活用拡大の推進 (4) 進路選択のための情報入手と検証機会充実 (5) 変化・現状に柔軟に対応した指導体制創造	(1) 模試、入試での生徒成績を分析する。 (2) 授業評価、補習の参加状況を分析する。 (3) 各種行事の参加状況やアンケートを分析する。 (4) 総合的な学習の時間、HRの評価を分析する。 (5) 個々の取り組みの検証・見直しを判断する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・進路説明会（生徒、保護者向け）実施。 ・模試の効果的活用。 ・進路指導 HP 充実、多治見高校サポーター制。 ・校内行事の拡充と外部行事への積極的参加。 ・補習、課題テストの見直し。	①学校の進路の数値目標達成 ②生徒・保護者の評価結果 ③生徒の実態に応じた事業推進	A B C D A B C D A B C D
11 成果課題	○新規事業立ち上げや事業見直しを継続し一定の成果をあげた。 （補習メニュー多様化、外部行事への積極的参加、行内行事の拡充 など） ○「開かれた進路指導」は従来よりも拡充し生徒の評価は概ね良好であった。 ▲模試成績や入試結果から判断すると一人一人の能力を伸ばしきれてない。 ▲総合的な学習の時間の縮小で「キャリア教育」推進の後退が危惧される。	
12 来年度に向けての改善方策案	・学校全体の改革に並行して、生徒や入試の実態把握に基づいて柔軟に事業の継承と見直しを行う。 ・総合的な学習の時間の内容・方法の充実を図り、LHRやサタスタと連携しキャリア教育を推進する。 ・外部の支援環境（多治見高校サポーター制、育友会との協同）の活用の充実を図る。 ・外部の業者の選定・協議を充実し、より適切な進路行事を開催し外部の進路イベント参加を高める。 ・補習の実施と課題の活用を工夫し、効果的・計画的な進路指導を目指す。 ・長期休業中の自宅学習・補習・行事等の充実を図り、学習や進路意識向上の継続性を高める。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月17日

【意見・要望・評価等】 ・進路説明会や保護者大学見学会等での進路指導部の説明から色々な情報が入手できる。 ・模擬試験を受けてもその復習が十分にできていないので、しっかりとできるようになるとよいのではないか。
--

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、アンケート全体で、肯定的な意見が保護者よりも生徒の方が低かったが、生徒への指導が浸透しほぼ同じ数値になった。一貫した指導を継続したことで、ほとんどの項目で肯定的な解答が昨年を上回った。 ・いじめ対応と教育相談の項目で「わからない」の解答が、生徒は10%台であったが、保護者は30%以上であった。保護者への周知の機会を増やす必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	自立できる強い心を育て、基本的な生活習慣とマナーを確立させる。 具体的指導項目：遅刻、身だしなみ、挨拶、情報モラル、交通安全、倫理観、模範意識	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や文書により情報を共有し、指導方針の共通理解を図る。 ・生徒指導部のリーダーシップと職員研修、学年会・他分掌との連携 ・生徒会、生活委員会、MSリーダーズ等の生徒による取り組み 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎日の登下校指導と身だしなみ確認週間の実施、生徒・育友会と協力した挨拶運動の実施 (2) 講話、集会、通信等をとおして交通安全・情報モラル指導を実施する。 (3) ひびきあいの日の人権LHRの取り組み (4) 遅刻指導、自転車の施錠指導	(1) 本校職員、育友会、生徒の評価（会議やアンケート等） (2) 統計と内容の比較 (3) 生徒と職員の評価 (4) 統計の年度比較	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 毎月一週間の身だしなみ確認週間を設定し生徒とともに挨拶運動を実施した (2) 情報モラルと交通安全は、年間を通して継続的に取り組めた。 (3) ひびきあいの日の全校統一人権LHRを実施し、倫理観を養う。 (4) 遅刻指導と自転車の施錠指導は年間を通して取り組めた。	(1) 生徒の自立した取り組み、職員の統一した指導。 (2) 特別指導件数と内容と自己統計の比較。 (3) 生徒、職員の意見・評価 (4) 統計の年度比較	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果課題	○全学年が新制服に移行し、身だしなみがよくなった。 ○男子の頭髪は、明確な基準を示し指導できた。 ○5月に自転車盗難が発生したが、以降、施錠指導を毎日実施し防犯意識を高めることができ、指導開始後の盗難は発生していない。 ○校内での金品の盗難がなかった。教室廊下の透明ガラス化や自転車の施錠指導等により、盗難の起こりにくい環境が整い、生徒の倫理観、防犯意識が向上したと考えられる。 ●11月までは昨年を60名下回る遅刻者数であったが、12月の積雪等の悪天候と3年生の増加で、昨年比較+16名の692名になった。 ●情報モラル指導では、情報社会の進歩に応じた指導の継続が必要である。 ●問題行動では、小テストや考査等での不正が多く、生徒の模範意識を高めるとともに職員の指導力の向上が課題である。 ●ハザードマップの作製、1年生への追加講話等の指導を行ったが、交通事故件数は微減にとどまった。昨年度（23件）→今年度（20件）	
12 来年度に向けての改善方策案	教育活動での生徒指導の大切さを理解し、職員の資質を向上できる職員研修を計画する。 学校アンケートより、いじめ対応と教育相談に関する項目の保護者への周知を図る。 交通安全指導では、事故の未然防止、事故後の対応に関する指導を継続的に実施する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月17日

【意見・要望・評価等】

定期考査中の図書館や子供情報センター等の施設の利用マナーの指導を実施してほしい。
登校時に気持ち良い挨拶をしてくれる生徒もいるので、朝の挨拶指導を継続してほしい。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・大きな災害・危機がないためか、生徒の安全に対する意識が希薄になっていると思われる。 ・必要に応じてメール配信を行い、保護者への連絡・協力を得られているが、なお一層の理解・協力が必要である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇個々の生徒が自分の健康に関心を持ち、自己管理できる能力を育成する。 ◇命を守る訓練、救急救命講習等を通して、事故・災害等の危機管理と健康被害防止の徹底を図り、万全な態勢で備える。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・命を守る訓練の実施方法を工夫し、現実味のある訓練を実施する。 ・全職員・生徒による安全点検を実施し、危険個所の発見と事故災害等の危機管理を徹底する。また必要に応じて、補修を行う。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 命を守る訓練や救急救命講習の実施 (2) 危機管理の徹底と職員間の報告・連絡・相談の充実	(1) 本校職員による評価 (2) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・命を守る訓練の工夫と実施	①訓練時等の様子	A (B) C D
・定期的な安全点検の実施と職員間の報告等	②安全点検の報告・巡回	A (B) C D
・救急救命講習、高校生防災リーダー研修会の実施	③消防署職員・防災士の講評	(A) B C D
11 成果・課題	○1年生全員に救急救命講習を実施し、緊急時に対応できるよう指導することができた。 ○防災士を招き、2年生3クラスを対象に高校生防災リーダー研修会を開き、DIG(災害図形訓練)を実施した。 ▲学校における気象警報についておおむね対応できるようになったが、登校時における発令については市町村別の対応となり、周知徹底できていないところがある。また登下校中の雷については、生徒・職員とも危機意識・安全意識の向上が必要と思われる。	
12 来年度に向けての改善方策案	局地的大雨、またそれに伴う雷について昨年よりも増えたように思える。学校待機の指示、待機場所の設定、保護者への引渡しについて、関係する職員の対応が潤滑にできるようになった。しかし大規模な災害が発生したと想定すると、まだまだ準備不足であると思える。市町村別の気象警報の対応、交通手段の確認、危機意識と安全意識の向上について、生徒・職員ともさらに周知徹底を図りたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月17日

【意見・要望・評価等】 ・最悪の事態を想定して、職員・生徒の安全意識の向上と徹底をより一層充実したい。 ・登下校中や在宅時における気象警報の対応について、生徒への周知徹底を図りたい。 ・三号館校舎の改装工事が終わり、外壁、廊下、階段、トイレ等がきれいになったが、きれいな状態を保てるよう、職員・生徒の美化意識を高めていきたい。
--

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン：「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・講演会や体験学習など授業以外の学習機会の設定について、満足度が保護者で4%、生徒で14%上昇している。継続的に実施し、生徒のスキルアップの一助とする。 ・部活動では保護者・生徒ともに80%以上の満足度を示している。生徒に満足感を持たせる指導と、保護者に活動内容や結果を知らせるなどの連携をとっていきたい。 ・ボランティアに関する項目について、生徒の満足度が9%伸びているが、全体としては50%を切っており、今後の課題である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人の自発的・自治的な活動により、集団や社会の一員としての自覚を深め、自己を生かす能力を育てる。 ◇きまりを守り、仲間と切磋琢磨しあいながら礼節を大切に、「文武両立」ができる生徒の育成をめざす。 ◇ホームルーム活動を中心として学校生活の適応や、よりよい人間関係の醸成を図る ◇自己の存在感や所属感を高め、生命を尊重する態度と他人を思いやる心を養う。 ◇生徒、保護者、地域に対し、より多治見高校を理解してもらう活動を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部会での協議を通して、意思疎通を図りながら協力して取り組む。 ・部活動・委員会活動の活性化のため、他分掌や学年、教科との連携を図り、協力体制を充実させる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)学校行事を通して帰属意識を養い、成就感や達成感を体験させ、本校生徒としての誇りと自信を持つことで豊かな人間性を養う。 (2)集団や社会の一員として、望ましい人間関係を構築し、協調性や責任感、公共心を養う (3)生徒会・委員会等の活動を通して、協力して問題を解決できる実践的な能力を養う。	(1)・各行事後のアンケート結果を分析する。 ・部活動の加入状況および活動状況を調査する。 (2)・HR活動に取り組む様子を観察し、担任により協調性や団結力の高まりを評価する。 ・部活動への参加状況と成績を集約する。 ・ボランティア活動への参加状況を把握する。 (3)・生徒が積極的・主体的に行事や個々の活動に参加し、計画性を持って取り組むことができているか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒会を中心とする学校行事の企画・運営 ・あいさつ運動の展開 ・「Have a Dream for 100」Project講演会の開催 ・部活動加入状況・活動状況調査による状況把握 ・休日・平日の部活動における方向性の提示	①行事ごとのアンケート ②委員会の活動実績 ③部活動の加入・活動状況 ④LHRの充実感 ⑤充実した学校行事	㉠ B C D A ㉡ C D A ㉢ C D A ㉣ C D ㉤ B C D
11 成果・課題	○学校行事の満足度（とても充実・まあまあ充実）は、スポーツ交流大会 95.8%、桔梗祭 97.5%、球技大会 95.2%と多くの生徒が満足している結果となった。また、生徒一人一人が主体的に参加しクラスの団結が高まったと答える生徒も9割を超えた。 ○「Have a Dream for 100」Project講演会では満足度が90.5%あり、生徒には自分自身のあり方や生き方を考えるよい機会となった。継続的に実施する。 ○生徒会や生活委員会が主体的に動き、あいさつ運動を展開することができた。全校を対象に標語を募集し、横断幕の掲示により呼びかけをする姿が見られた。 ▲ボランティア活動を生徒会執行部や吹奏楽部で積極的に行った。参加させたいボランティアの精選と、その活動を報告し知ってもらえる場を設定できるとよい。 ▲保護者、地域に対し多治見高校を理解してもらう面では、不十分であった。	
12 来年度に向けての改善方策案	・学校行事や「Have a Dream for 100」Project講演会をとおり、多治見高校生としての自信と誇りを持たせ、魅力ある学校づくりをおこなう。 ・積極的・主体的な生徒会活動、委員会活動、部活動について、それぞれの取り組みを深めていく手立てを考えていかなければならない。 ・学校行事やボランティア活動、部活動の結果など多治見高校の活躍をホームページや生徒会新聞などを通して、より広く発信していく。	

【意見・要望・評価等】

- ・通学路で多治見高校の生徒の方から挨拶をしてくださいました。自然な感じでよかった。まら、中学校の旗当番でも高校生が挨拶をしてくれる。あいさつ運動はこれからも続けてもらいたい。
- ・ボランティアの参加者が少ないとのことだったが、夏のお祭りで茶華道部の生徒が4人ボランティア参加してくれ、ワークショップで頑張ってくれた。ありがたかった。
- ・文化祭もみせてもらったが生徒も保護者も楽しそうでいい感じだった。
- ・100周年への講演会は今後も子どもの心に響く内容のものをお願いしたい。